

【今日の説教から】

アドベント(待降節)が始まろうとしています。

「神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。」とヘブル 10 章 36 節にあります。忍耐の大切さは先ごろ読みましたヤコブ書にも書いてありました。

「わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っているとおりに、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。」

信仰が試され、信仰が鍛え上げられ、どんなに苦しい状況の中で、踏んだり蹴つたりの目に遭っても、泣きっ面に蜂の状況であっても、希望の灯がかき消される嵐のような中であっても、信仰がなくならず、信仰を持っているからこそ忍耐できるという局面を通らされれば通らされるほど、私たちの信仰も忍耐も増し加わるのです。私たちに必要欠くべからざるものは、信仰と希望です。どうして信じ、希望を抱くことが出来るかといえば、与えられ、注がれている神様の愛のゆえです。

ザカリヤは妻の懐胎の知らせに、何によってそれを見出すことが出来ようか、私も妻も年老いているのに、と言いました。彼は自分の側からしか物事を考えられませんでした。

事は、人の理解をはるかに超えたところで成りました。妻エリサベツは、「主は今私にこのように目を留めて下さった」と歓喜に踊るのです。主の良き知らせは成就します。

皆様おはようございます。

昨日の朝は時ならぬ降雪があり、高野では10センチメートルの積雪があったと聞きます。急ぎ冬タイヤに交換された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。暖冬になるとのことでしたのにびっくりいたしました。これからはまた暖かさが戻るようです。

さて私たちはもうすぐアドベント(待降節)を迎えようとしています。

私たちはクリスマスの1か月前から週毎にろうそくを一本ずつ増やし、4本になった時が主のご降誕の時ということで、楽しみにその時を待ち望みます。

すぐにクリスマスの時をお祝いするのではなく、1か月間毎日毎週待ちわびて、ついにそのお祝いをするということについて、私は、主のご降誕であるクリスマスは、楽しいことだからそれを待つことも楽しいので、そういう風にするものだと考えておりました。その通りの理由だと思うのですが、もう一つ、この「待つ」ということ時代が非常に大きな意味を持つからその「待つ」ということを毎年自分自身に課すのだという考え方もあるのだなあとと思うようになりました。

ザカリヤとエリサベツという夫婦がいました。

5 ユダヤの王ヘロデの世に、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという者がいた。その妻はアロン家の娘のひとりで、名をエリサベツといった。

6 ふたりとも神のみまえに正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落度なく行っていた。

7 ところが、エリサベツは不妊の女であったため、彼らには子がなく、そしてふたりともすでに年老いていた。

二人とも由緒正しい出身の人たちで、神の御前に正しい人であり、主の戒めと定めを皆落度なく行っていたのに、ところが。それなのに「ところが」。こういうことがあるものです。長年の祈りもむなしく、そして二人ともすでに。時過ぎて「すでに」、もう年老いてしまっていたということです。

二人とも神様の御前に正しい人たちだったのに、「ところが」祈れども祈れども答えが得られず、「すでに」年老いていた。

この理解のできない、神様の空白地帯のようなところ。どういうことか意味が測りかねるところ。考えても考えても結論が得られない所。神様は何を考えておられるのだろうか。神様はどうして無視をしておられるのだろうか。神様は無関心でいらっしゃるのだろうか。祈りに答えてはくださらないなんて。こういう多くの屈折と悩みと疑問が渦巻く長い長い時を経過しました。

8 さてザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務をしていたとき、

9 祭司職の慣例に従ってくじを引いたところ、主の聖所にはいって香をたくことになった。

ここに突如として神様のお働きかけがあります。

「祭司職の慣例に従ってくじを引いたところ、主の聖所にはいって香をたくことになった」ということは偶然ではありません。神様のお働きかけの中でこのことは起こりました。

10 香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。

11 すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。

12 ザカリヤはこれを見て、おじ惑い、恐怖の念に襲われた。

13 そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞きいれられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。

ザカリヤは突然の事に、おじ惑い、恐怖の念に襲われました。

彼は恐怖の念に囚われました。これが彼の思う展開ではなかったからです。

光栄ある香をたく務めに選ばれました。祭司だからと言って、一生のうちに一度当たるか当たらないかの光栄な務めです。それがこの時に彼にあたったということは、偶然ではありませんでした。聖所に入り、香をたき祈る務め、この働きが天使の出現によって妨げられた。このことも偶然ではありませんでした。全ては神様がお定めになった通りの事でした。私たちの頭の中には色々なシナリオがあります。そしてその考えの通りになるということが最善だと感じている節があります。物事のタイミングや、物事が起こることについて、祈ることが実現し、かつ祈ったらすぐに私たちの願いがかなえられるようにと、私たちは願い、心に思い描きます。しかし私たちが思ったままに事が進むとは限らないのです。だからと言って裏切られたわけではありません。だからと言って神様はおられないのではなくて、無関心なのではなくて、神様ご自身の深いお考えがそこにはあるのです。

しかし、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞きいれられたのだ。」と言われても、その祈りへの答えは遅すぎるものでした。全く時を得ない、すべてが遅すぎてもう取り返しのつかないこととなったというような、悪い冗談のように聞こえたに違いありません。

神様はザカリヤが恐れようと、理解できなかりと、御使いを通して神様ご自身のご計画をお語り続けになられます。

- 14 彼はあなたに喜びと楽しみとをもたらし、多くの人々もその誕生を喜ぶであろう。
- 15 彼は主のみまえに大いなる者となり、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており、
- 16 そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。
- 17 彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう」。

「喜びと楽しみ」、「主のみまえに大いなる者」、「母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされて」・・・。

するととうとう、ザカリヤの我慢も限界に達します。自分の理解を待たずに、自分の納得も待たずにどうしてそんなに一方的に事を進められるのか、彼は自分が置いてきぼりにされているように思い、詳しく説明もなく、自分の意思とかかわりなく勝手に進められていくこの出来事に怒りさえ感じたのではないのでしょうか。そしてこのように語りました。

- 18 するとザカリヤは御使に言った、「どうしてそんな事が、わたしにわかるのでしょうか。わ

たしは老人ですし、妻も年をとっています」。

わたしにはそんなことは分かりません。何によってそんなことが起こるって分かるのですか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。

この言葉には、どうして今の今まで私たちを放っておられたのですか、遅すぎるではないですか。今頃になってあなたの祈りは聞かれたと言われても、この年になってからでは遅すぎるではないですかという怒りの気持ちが含まれているのではないのでしょうか。

私たちにもそういう思いがあるのではないのでしょうか。願った時に、願ったことをすぐに叶えてほしい。自分が理解できる筋道で、その通りです、感謝しますというような、分かりやすい祈りの答えを私たちは願います。

しかし時にはそれが神様の御心ではないことがあります。そしてそれは神様の気まぐれでも意地悪でも皮肉でもなく、神様への私たちへの最善であるのです。

19 御使が答えて言った、「わたしは神のみまえに立つガブリエルであって、この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために、つかわされたものである。

20 時が来れば成就するわたしの言葉を信じなかったから、あなたは口がきけなくなり、この事の起る日まで、ものが言えなくなる」。

21 民衆はザカリヤを待っていたので、彼が聖所内で暇どっているのを不思議に思っていた。

私たちのために神様は、グッドニュース、喜ばしい良い知らせを計画しておられるのです。

私たちには人生には、神様からの吉報、朗報、喜ばしい良き知らせに満ちています。

神様の言葉は時が来れば実現するのです。神様の良き言葉は、神様の良きご意思是、時が来れば実現する確かさと共にあります。神様の言葉には力があり、恵み深く、それを一心に信じる者のために時が来れば実現する確かさをもって私たちに迫るのです。

「あなたは口がきけなくなり…」これは刑罰ではありません。神のことを思わず、自分の事ばかり考えて、思い余って神様に語られる見当はずれの言葉によってそれ以上の罪を犯さないように、静まって神様の前にまっすぐに向かうための神様のお取り計らいということが出来るのではないのでしょうか。

詩編 46:10 「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる」。

22 ついに彼は出てきたが、物が言えなかったので、人々は彼が聖所内でまぼろしを見たのだと悟った。彼は彼らに合図をするだけで、引きつづき、口がきけないままだった。

23 それから務の期日が終わったので、家に帰った。

24 そののち、妻エリサベツはみごもり、五か月のあいだ引きこもっていたが、

25 「主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と言った。

エリサベツのこの言葉に尽きるという思いがいたします。

「主は、今わたしを心にかけてくださって」。原文には「このようにして、このような方法によって、私のために、主は私を心に留め、注意を払っていて下さった」という意味合いがあると思います。

このようにして、こういう方法があったんだと、最終的に合点がいく。この時に、こういう方法で。あえてそういう成り行きで、今この時に。

神様のお心は、時が来れば実現し、最善最高の方法で実現するのです。

私たちは自分の思いの中で、いつ、どのようにということを詮索し、熱心に祈ることもあれば、もう叶えられないと勝手に諦めて不可解さの中に怒りと失望を感じることもあります。私たちはそれでも神様への信頼のゆえに忍耐し、神様の最善の時と最善の方法を悪魔で信じ続けて行くのなら、神様のご栄光を見るのです。

ヨハネ 11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

11:26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。

11:39 イエスは言われた、「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。

11:40 イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったのではないか」。

11:41 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。

11:42 あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。

2 ペテロ 3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられ

るのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

マタイ 24:42 だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。

再臨の主に出会い、永遠の安息に入れられるその時まで、私たちもまた信じて神様の良き知らせの中を守られ、祝され、恵まれて、信じ続けながら進ませていただきたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いよいよアドベントの時を迎え、主のご降誕を待ち望む時を過ごしておりますが、クリスマスのメッセージは信じて待つものには報いがあるという確かなメッセージですから、ありがとうございます。喜びとなり、楽しみとなる出来事、喜ばしい知らせが語られる、時が来れば実現する神様の真実な言葉があり、「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め」てくださったと、喜びをもって告白させていただきますからありがとうございます。どうぞ私たちが主の与えて下さる喜びが今この時に実現した、という時まで信じて待ち続けることが出来るように、私たちの信仰をお守りください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン